

2 ビハーラ活動全国集会の現状

宗派では1994（平成6）年2月に第1回目となる全国集会を開催し、2018（平成30）年2月には第16回ビハーラ活動全国集会・30周年記念大会が行われている。

全国集会には、普段、個人またはグループでビハーラ活動に取り組んでいる方々だけでなく、初めて参加する人も多く、ともに研鑽する場となっている。従来、各連区において担当教区を決めて開催される連区研修会において様々な研修会が行われている。全国集会においても全国各地のビハーラ活動者が交流を深め、そのプログラムは、基調講演や分科会を行うことが慣例となっている。また、第1回から第12回までは、本願寺や教区において毎年開催されており、第12回からは3年に1度、本願寺で行われている。

第16回ビハーラ活動全国集会・30周年記念大会における分科会について、緩和ケアや高齢者福祉等の分野に加えて、子どもへのビハーラや災害支援について、そして地域コミュニティの分野など幅広く10分科会を行っている。これは30年のあゆみの中で、ビハーラ活動の内容が広がってきたことと関係している。

このビハーラ活動全国集会の現状について、参加者からのアンケートもとに分析を行った。49頁には第16回ビハーラ活動全国集会・30周年記念大会の要綱や日程、分科会のテーマ・趣旨などを掲載しているので、ご参照いただきたい。

「第16回ビハーラ活動全国集会・30周年記念大会」アンケート 結果

第16回ビハーラ活動全国集会・30周年記念大会〔アンケート実施日：2018（平成30）年2月17日（土）～18日（日）〕において、参加者に対してアンケートを実施し、回答を求めたところ、188名から回答が得られた。設問によっては、未回答の結果もあったが、全てを対象として分析を行った。

この調査からは、全国のビハーラ活動者のうち、全国集会へ参加した人への調査であることから、ビハーラ活動を熱心に取り組んでいる人の実態の一部を明らかにすることができると考えられる。

なお、レポートの中の（n= 数字）はその項目の有効回答数である。また、中央値やスーパービジョンなどの専門用語については、巻末の専門用語解説一覧を参照いただきたい。

問1. あなたの所属を教えてください (n=188)



図1 参加者の所属

➡回答者は大部分が教区ビハーラに所属している参加者であった。今後、参加者数の増加に向けては、西本願寺医師の会や浄土真宗本願寺派関係高齢者施設連絡協議会への広報や、活動の連携を模索していくことも可能性の一つと考える。

問2. あなたの年齢を教えてください (n=182)

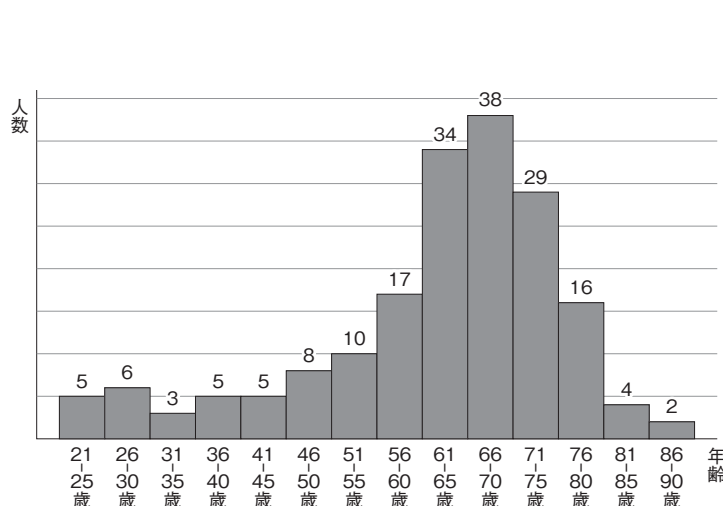


図2 参加者の年齢

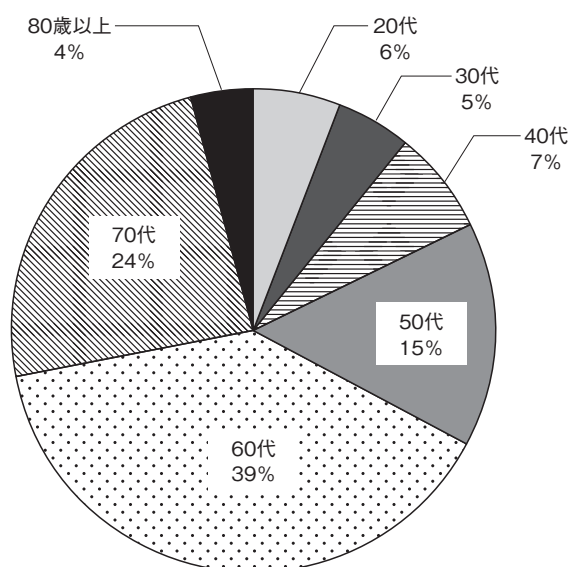


図3 参加者の年代

➡平均年齢は、62.2歳であり、中央値は65歳であった。最年少が21歳で、最高齢が89歳であった。また、60代は全体の39%を占め、続いて70代が全体の24%であった。

問3. あなたの性別を教えてください (n=188)

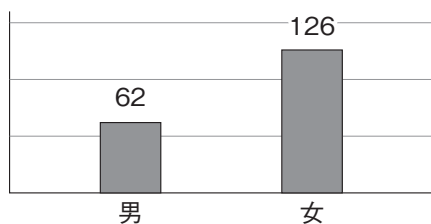


図4 参加者の性別

➡男性と女性が、約1：2の割合でビハーラ活動を行っていることが推測される。

問4. あなたはどの区分に入りますか (n=183)

僧侶・寺族・門徒・その他 ※但し、寺族のうち僧籍のある方は、僧侶に記入してください

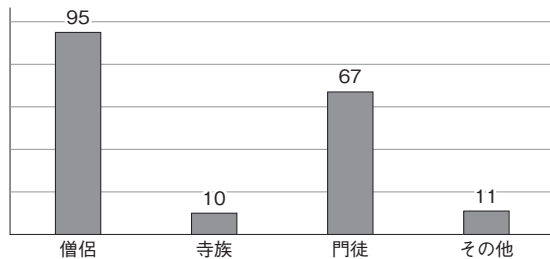


図5 参加者の区分

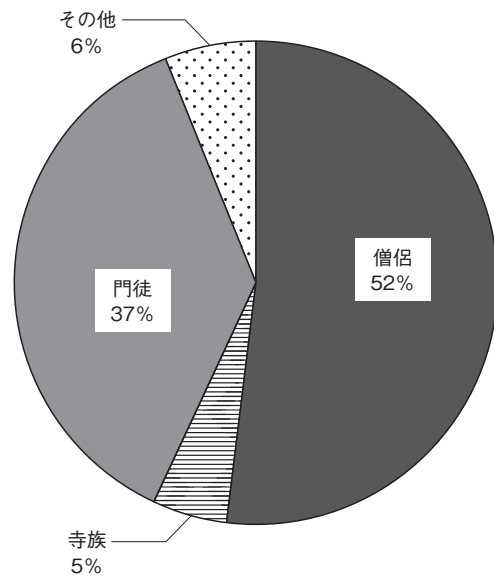


図6 参加者の割合

➡20年総括書と比較してもほぼ変わりはなく、ビハーラ活動が僧侶と門徒で協力して行われていることがわかる。しかしながら、他の資料と比べて、やや門徒の人数が少ないことから、門信徒の活動者が全国集会へ参加しにくい状況があるのか、もしくは、門徒の活動者が減少傾向にあるのかについては調査する必要がある。

問5. 本全国集会をどのようにして知りましたか (主なものを一つだけ○) (n=180)

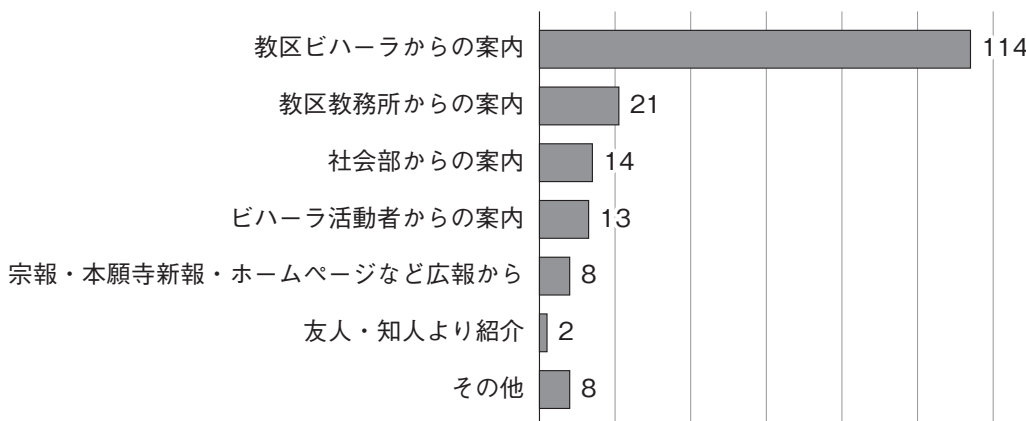


図7 案内の入手方法

➡全国集会への参加者は、教区ビハーラや各教区の教務所からの案内が主なルートであることから、その多くが教区からの広報による参加であるといえる。このことから、教区ビハーラの活動に属さない活動者への周知は、日々の活動の中でネットワークを構築していく必要があるといえる。そのためにも、教区ビハーラやビハーラ代表者、各教区教務所においてネットワークを構築することが重要であるといえる。

問6. ビハーラ活動をご存知ですか（主なものを一つだけ○）（n=187）

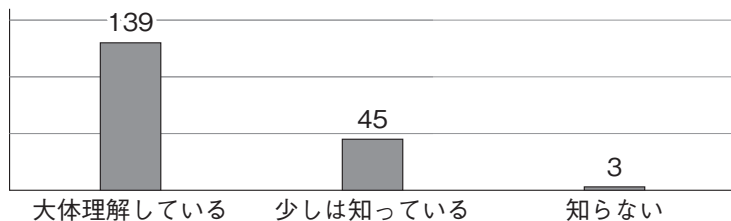


図8 ビハーラ活動の認知度

➡ビハーラ活動を大体理解しているとの回答が全体の約75%と最も多かった。これについては、全国集会へ参加していることから、ビハーラ活動を熱心に実践している活動者であるといえる。一方、残りの約25%が、ビハーラ活動を少しは知っている・知らないと回答した。これについては、全国集会へ参加していることから、ビハーラ活動へ今後、参画していこうとする回答者であると推測される。

〔全国集会についておたずねします〕

問7. 全国集会は何回目の参加ですか（主なものを一つだけ○）（n=185）

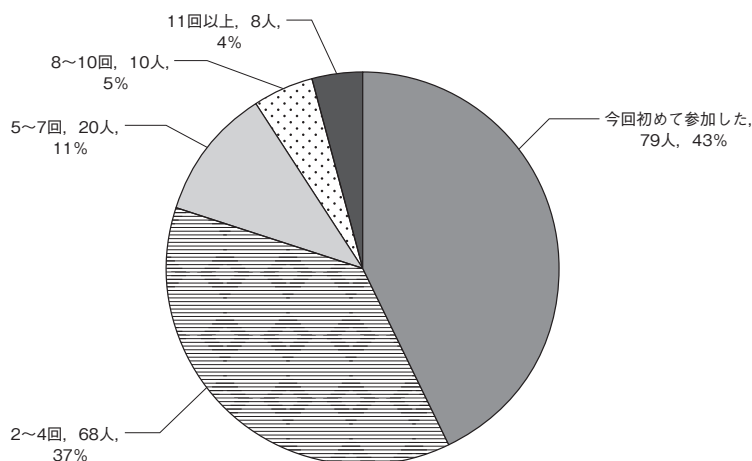


図9 参加回数ごとの割合

➡全国集会へ初めて参加したという回答が43%と最も多かった。次いで、参加回数が2～4回で37%と、全国集会に参加の80%が5回未満の参加者であった。このことから、ビハーラ活動者の高齢化がみられる一方で、全国集会により前向きに参加し始めている人の存在もあることから、それらの参加者がビハーラ活動のネットワークに入れること、またネットワークを広げていくことが課題の一つと考えられる。

また、5回以上の参加者が20%と熱心かつ長期的に活動していることも明らかになった。長期的に活動している参加者がそれぞれ、どのような活動をしているのか、どのように維持・発展しているのか、課題をどのように感じているのかなど、今後のビハーラ活動において貴重な存在であると考えられる。それらの活動者の経験などからどのように学ぶことができるのかを課題の一つと考えられる。

問 8. 今回の全国集会はどのような目的で参加されましたか（主なものを一つだけ○）（n=167）

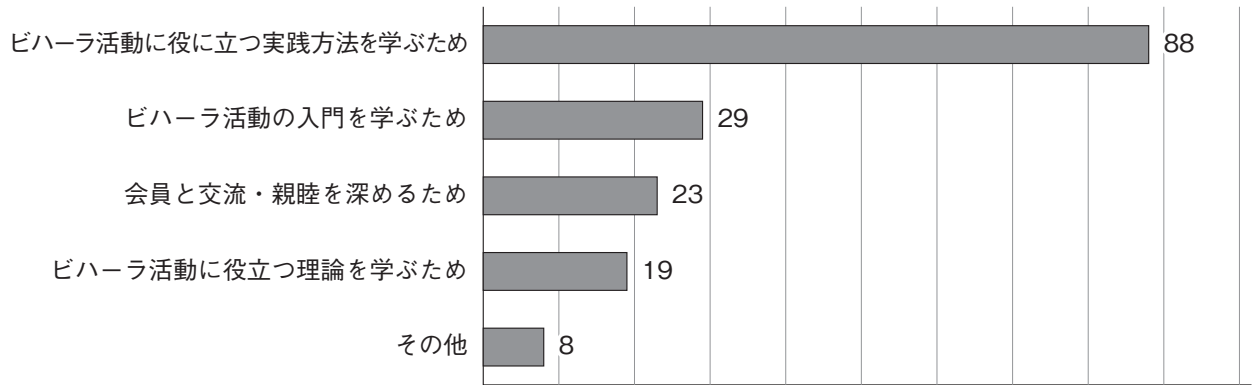
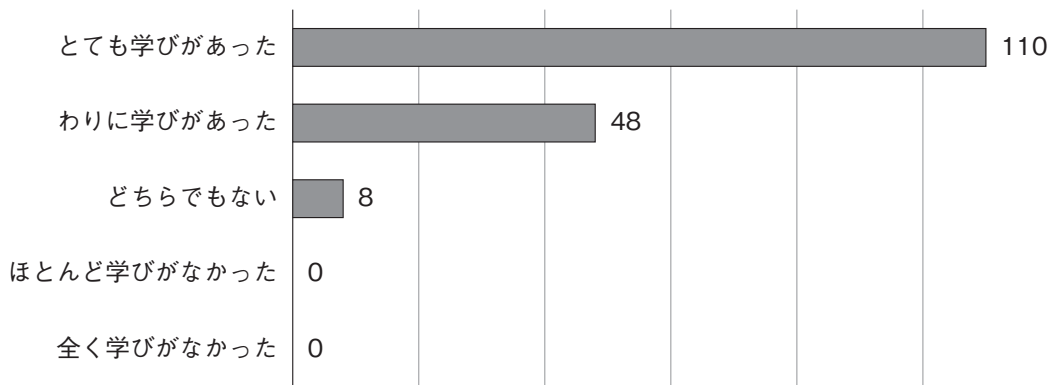


図10 参加の目的

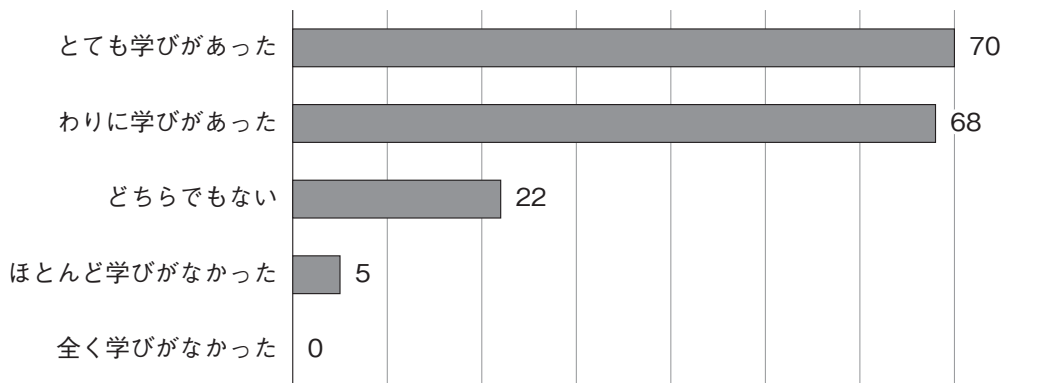
➡ 「ビハーラ活動に役立つ実践方法を学ぶため」との回答が最も多く、「ビハーラ活動に役立つ理論を学ぶ」ことも必要ではあるが、むしろ、参加者は現場で役に立つ情報を求めていることがわかった。次に多い回答が「ビハーラ活動の入門を学ぶため」であり、今後、より活動したいという新規参加者の存在がうかがえる。また、「会員と交流・親睦を深めるため」との回答からは、ビハーラ活動のネットワークを求めている姿もうかがえた。

問 9. 全国集会プログラムの感想をお聞かせください（それぞれ一つだけ○）

【基調講演について】（n=166）



【意見交換会について】（n=165）



【分科会について】 (n=129)

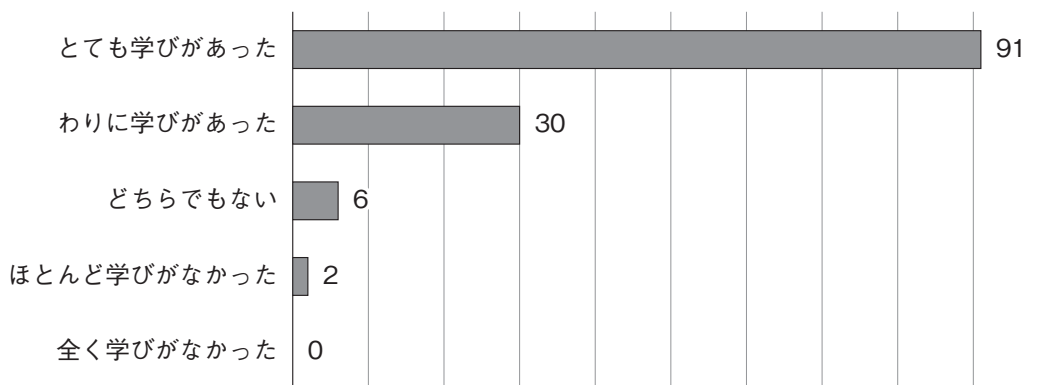


図11 プログラムへの感想

➡参加者の大部分が「とても学びがあった」、「わりに学びがあった」と回答しており、現状のビハーラ活動全国集会が参加者にとって高い満足度になっていることがわかった。

問10. 全国集会の開催間隔はどの程度が適当と思われますか (一つだけ○) (n=169)

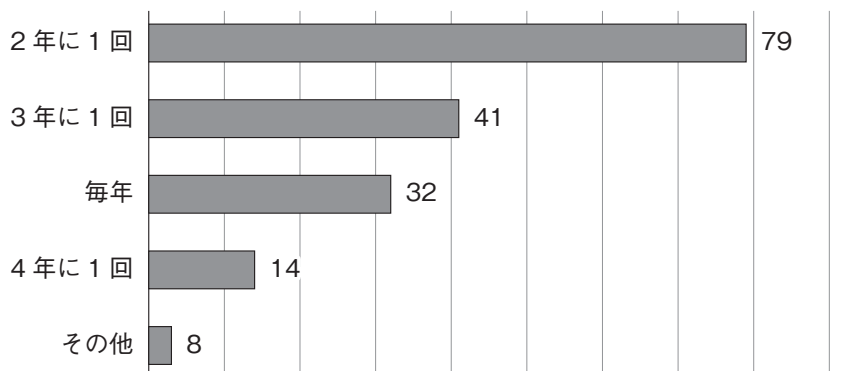


図12 期待する開催頻度

➡全国集会の開催期間は、2年に1回程度が最も適当と思われていることが読み取れる。他の回答として、より少ない頻度を期待する回答や、より多い頻度を期待する回答もあった。

問11. 全国集会の開催曜日・日程はどの程度が適当と思われますか（それぞれ一つに○）

開催曜日について（平日がよい・休日がよい）（n=164）

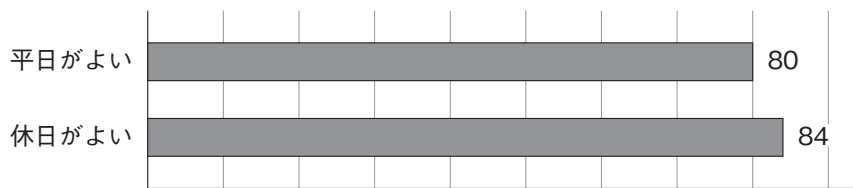


図13 期待する開催曜日

開催日程について（1日・1泊2日・その他）（n=170）

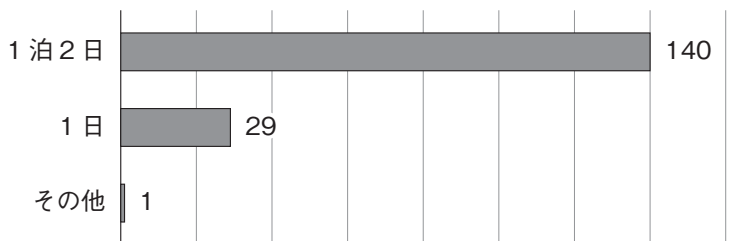


図14 期待する開催日程

➡全国集会の開催曜日は、平日を望む回答と土日を望む回答が同数程度であった。
また、開催日程は、現状である2日間の日程での開催を望む回答が多かった。

問12. 全国集會に望む内容はどれですか（複数回答可）（n=187）

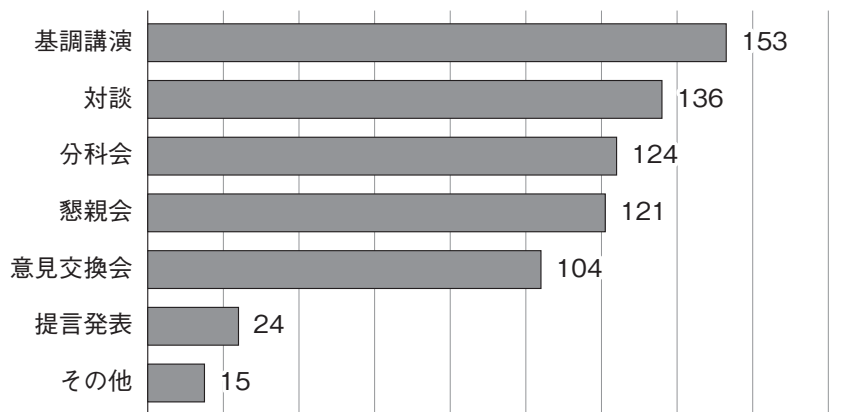


図15 望んでいるプログラム

➡全国集會に望む内容では、基調講演、対談、分科会、懇親会、意見交換会は、半数以上が望んでいるとの回答があった。

〔ビハーラ活動を実践されている方へ、ご自身の活動実践についておたずねします〕

ビハーラ活動を実践されていない方は、問い27へ進んでください

問13. ビハーラ活動のご経験は何年になりますか（主なものを一つだけ○）（n=141）

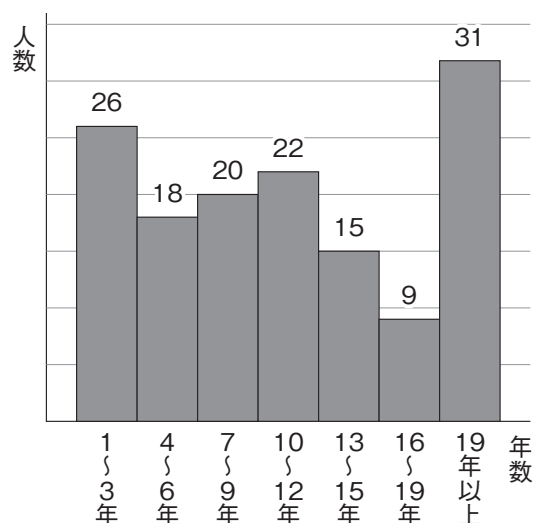


図16 経験年数

➡ビハーラ活動の経験が19年以上と長期に活動している回答者が最も多い31人であり、全体の22%を占めていた。また、表からは継続してビハーラ活動を実践している層があることから、これらは、ビハーラ活動創始期から熱心に活動している層であると考えられる。その一方で、他の資料からも読み取れるように、活動者の年齢が高齢になっていることから、ビハーラ活動者の高齢化が進んでいるとも考えられる。

次に、1～3年の経験との回答が26人であり、全体の18%であった。このことから、ビハーラ活動に対する宗門内での関心は一定程度あり、新しい活動者が増える余地があり、その拡張と維持が課題と考える。

また、19年以上の経験が最も多いものの、10～12年の経験が22人と3番目に多く、全体の16%を占めている。このことから、10年前後は活動者がモチベーションを維持している現状にあると考えられるが、その維持、また活動者をサポートする体制を検討することが必要と考える。

問14. あなたのビハーラ活動を始めた動機は何ですか（主なものを一つだけ○）（n=137）

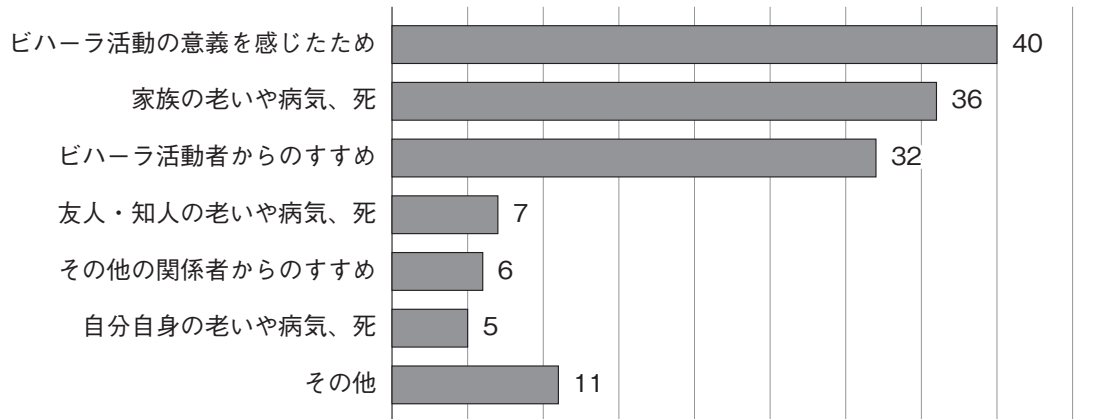


図17 活動の動機

➡ビハーラ活動を始めた動機は、「ビハーラ活動の意義を感じたため」、「家族の老いや病気、死」、「ビハーラ活動者からのすすめ」の3つの回答が多く、その合計は108人となり、全体の約80%であった。ビハーラ活動を始める動機の大半はこの3つの要因があると考えられる。ビハーラ活動者が、その活動を始める動機について、「自分自身の老いや病気、死」より、「家族の老いや病気、死」の回答が多く、また、年齢層のアンケート調査結果とあわせて考えると、40代あたりから、活動のモチベーションやきっかけが増えてくると考えられる。

また、ビハーラ活動者をより活性化し、活動者を増やすことを考えるのであれば、広報活動が重要であるといえるが、それと同時に、ビハーラ活動を実践するその一人ひとりが周りを巻き込んでいくことが手段の一つであるとも考えられる。

問15. 現在、ビハーラ活動をされている目的は何ですか（主なものを一つだけ○）（n=132）

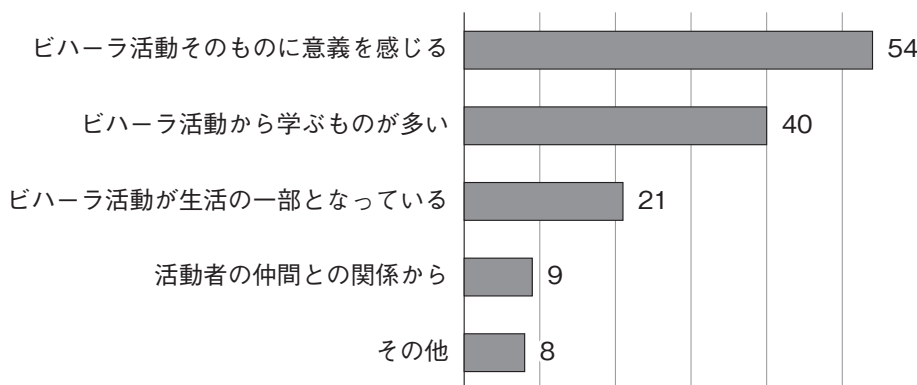


図18 活動の目的

➡ビハーラ活動を実践している目的は、「ビハーラ活動そのものに意義を感じる」という回答が54名と最も多く、全体の41%であった。次いで、「ビハーラ活動から学ぶものが多い」との回答が40名で、全体の30%であり、「ビハーラ活動が生活の一部となっている」の回答が21名で、これは全体の16%であった。

問16. ビハーラ活動の意欲が下がるものは何ですか（箇条書）

➡この結果は、大きく4つに分けることができた。

以下、アンケート結果そのものを「 」で示す。

1. [活動者にかかる負担]

(ア) 金銭的・時間的な負担 (イ) 精神的な負担

2. [人間関係による負担]

(ア) 活動現場における困難 (イ) 活動者同士の間人間関係

3. [活動の社会的な位置付けの難しさ]

(ア) ビハーラへの誤解、認知不足 (イ) 活動の目的のあいまいさ

4. [活動者同士の繋がりが希薄]

(ア) 活動者の減少 (イ) 活動者同士の研鑽の場が不足

1. [活動者にかかる負担] については、「経済的に活動費が負担になる」「自分の時間調整」など、実践のための実質的な負担が大きいことが読み取れる。また、「支えてくれる人が少ない・孤独」「無力感」「自分の活動が思い通りにならない時、その愚かさに自分が気づいた時」「自分が満足できるかどうかでその1日の疲れ方が違います」のように、精神的な負担についての回答もあった。

2. [人間関係による負担] については、「スタッフとのコミュニケーションが取れない」「関係者の怒り」「訪問することを断られる」「宗教的介入の困難」「医療者との連携がなかなかうまくいかないこと」「何しに来ているのか、スタッフが理解されていない」など、活動先での人間関係の難しさが明らかとなった。また、「活動者の人間関係」といった、活動者同士での協力関係の不足や、否定的な言葉に対して意欲が下がるという回答や、「周りの協力のなさ、僧侶との連携のなさ、批判」といった、協力関係を結べないことについての困難さについての回答もあった。

3. [活動の社会的な位置付けの難しさ] については、「社会の中で孤立して活動していること」という回答やビハーラという言葉そのものの社会的な認知度の低さが、活動者の意欲を下げているという面や、「本願寺派寺院でありながら大半の寺院の関心が低いと思う」という、宗門内においても認知度が低いと感ずることがあるようである。また「ビハーラ活動の具体的な理念のテーマが見えない」「ボランティア活動との境界があやふや」といった、理念の不明確さについての指摘もあった。これらに対して宗派はパンフレット等を作成するなど、ビハーラに関する理解を促してきたが、これにはまだ課題が残っていることがわかる。これらの課題は、活動者の不全感からくるものであり、活動者自身が認められてないと感じるからこそ起こってくると考えられる。そのため、それぞれのビハーラ活動者を支えるための領域別のガイドラインと、それを運用するスーパービジョンの仕組みが必要になってくるのではないかと考えられる。

4. [活動者同士の繋がりが希薄]については、「一緒に活動していた仲間が種々の理由により、共に活動できなくなった」「次にバトンタッチできる人は誰なのかを考えること、少し不安になります」といった、活動者の減少を心配する回答があった。また、「ビハーラ活動についてどのような活動を行なっているのか、教区では見えていないように思う」「活動の成果が具体的に見えにくい」といったそれぞれの活動の可視化、相互評価・研修の場が必要との回答であったり、また、それぞれの「活動に関し、専門的な知識がないこと」などの回答もあった。

問17. あなたはビハーラ活動をどこで実践していますか（該当箇所にくつつでも○）（n=138）

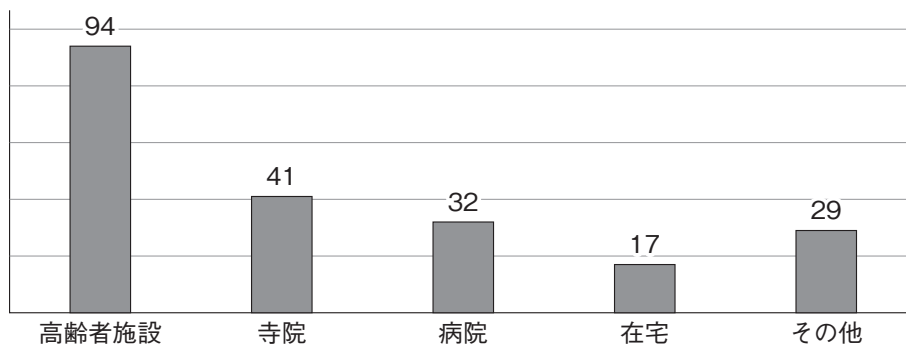


図19 活動場所

➡ビハーラ活動の実践場所は、94人の回答があった高齢者施設が最も多く、全体の中の68%を占めていた。もともと、仏教を基礎としたターミナルケアから始まった活動ではあるが、この宗門の活動においては、高齢者施設においても積極的に取り組まれていることがわかる。次いで寺院で実践しているとの回答が41人であり全体の30%、病院が32人であり全体の23%であった。このことから、それぞれの現場ごとに実践している形態が異なることは当然であり、様々な活動が全国で展開されていることがわかる。

問18. あなたはどのような活動をしていますか（いくつつでも○を）（n=138）

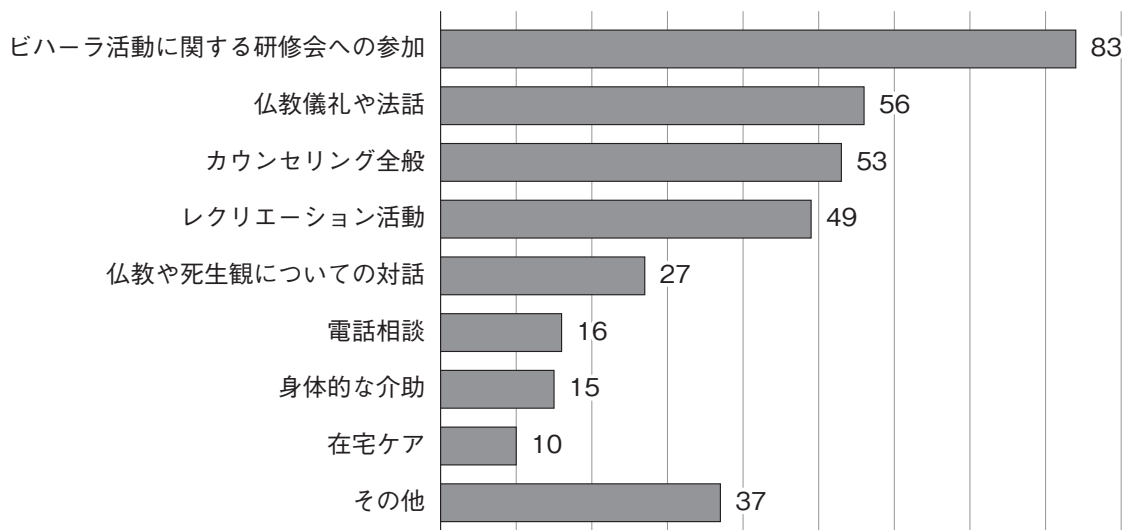


図20 活動内容

➡どのような活動をしているかについては、「ビハーラ活動に関する研修会への参加」の回答が83人と最も多く、全体の60%であった。これは、全国集会の参加者を対象とした調査であることも影響しているが、ビハーラ活動者の研修意欲は高いことがわかる。しかしながら、研修を希望する回答も多い一方で、研修会を開催することが難しいという回答もあるが、継続的な研修を展開することがよりビハーラ活動を活性化させられる可能性があると考えられる。

ビハーラ活動の具体的な実践内容としては、「仏教儀礼や法話」で56人の回答があり、全体の41%、また「カウンセリング全般」が53人の回答があり全体の38%であった。そして、「レクリエーション活動」は49人の回答があり全体の36%であった。このことから、これら3つが最も基本的な活動であると考えられる。

その他、「仏教や死生観についての対話」、「電話相談」、「身体的な介助」、「在宅ケア」と続き、様々に展開していることがわかった。「その他」の活動の回答は、地域で行っているサロン、寺院でのレクリエーション、相談活動、追悼法要、勉強会、子ども食堂などの回答があった。

問19. あなたはどんな形でビハーラ活動をしていますか (n=116)

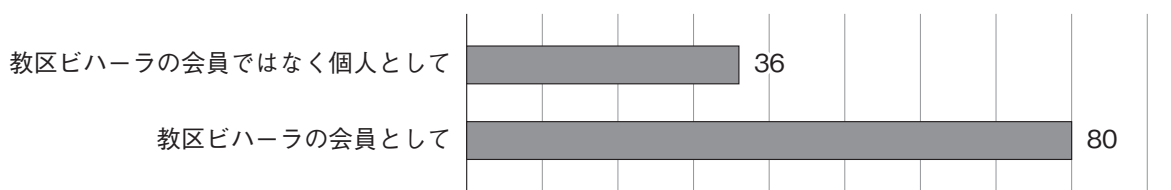


図21 活動団体の所属

➡教区ビハーラの会員として活動している回答が80人で全体の69%であり、基本的な活動の進め方であるといえる。

一方、教区ビハーラの会員ではなく個人として活動しているという回答が36人で全体の31%であった。これは教区ビハーラの活動として教区が把握している活動以外にも個人において展開している可能性が伺える。

問20. あなたがビハーラ活動の実践現場で困ることは何ですか（箇条書）

➡この結果は、大きく5つに分けることができた。

1. [仲間がいない]
 - (ア) 活動者の減少 (イ) 活動者の高齢化 (ウ) 活動者同士の繋がり不足
 2. [活動そのものへの不安]
 - (ア) 自身が教義を実践の場で伝えることの不安感 (イ) 活動に対する不安
 3. [活動上の制約]
 - (ア) 活動する場所の制約 (イ) 時間的な制約 (ウ) 施設側からの制約
 4. [患者や入居者とのコミュニケーションの難しさ]
 5. [施設からビハーラが理解されていない]
-
1. [仲間がいない] については、「会員の減少」「住んでいる地域で、一緒に活動する仲間がいない」などの人間的な課題があり、それは「活動者の高齢化」「新しい方が入りにくい」といったことが関係していると考えられる。広報的な課題のみならず、その活動をいかに支えていくかが大きな課題であると考えられる。また、「なかなかビハーラ会員同士話し合う機会が乏しい」「横のつながりや情報が伝わらない」など、活動者の中でも活動を共有できる状態にない部分もあると考えられる。
 2. [活動そのものへの不安] については、「人に話したことが浄土真宗の教えに間違っていないかどうか」など、自身が教義を実践の場で伝えることの不安感や「私が実践していることはこれで良いのかと不安になることがあります」「一言の言葉でお相手のお心に傷つけることを思うとなかなか外の施設へ皆で出向けないでいます」などの活動に対する不安についての回答もあった。その対応として、「相談できる場があると良いと思います」などの、スーパービジョンを求める回答もあった。
 3. [活動上の制約] については、「活動の場が少ない」「活動場が遠い」「活動の拠点の開拓が難しい」と言った活動する場所の制約、「職員の方と語れない。時間的にも」「活動日が平日であること」などの時間的な制約、「宗教を持ち込まないでほしいとの意向」「居室訪問ができない（施設側の意向）」などの施設側からの制約があるという回答があった。
 4. [患者や入居者とのコミュニケーションの難しさ] については、「声かけの仕方」「手を差し伸べて良いかどうかの判断」といった、導入部分の難しさについての回答や、「患者とのコミュニケーションを取るのが難しいこと」「何を話せば良いかわからない」「死だけの話し合い。夢や希望がないこと」など、より具体的な会話の中でどのように展開すればいいのかが難しいという回答もあった。
 5. [施設からビハーラが理解されていない] については、「認知度が低いこと」などの認知度に関するものもあるが、「施設スタッフのビハーラ理解、知らないという事」などのビハーラそのものへの理解を得られていないという回答があった。

これまで、パンフレットやリーフレットを作成するなど宗派においてビハーラの理念や方向性を示してきたが、課題が残っていることから、むしろビハーラ活動の意義が施設にとって認められにくいということが考えられる。ビハーラ活動は患者や入居者など様々な人の苦悩に寄り添う活動であり、その意義については様々に述べられているが、この活動に対して施設の職員が実感できていない部分があると考えられる。これは直接的な説明が解決につながるものではなく、むしろ草の根レベルで少しずつ活動者と関係構築をしていくことが必要となるであろう。しかしながら、3. [活動上の制約] にもあるように、職員との関係構築は、様々な困難が伴うことがみてとれる。これから組織の中でどのようにこの活動を位置付けるのが重要な課題であると考えられる。

問21. ビハーラ活動において、困ったことがおこったとき誰に相談していますか

(いくつでも○を) (n=126)

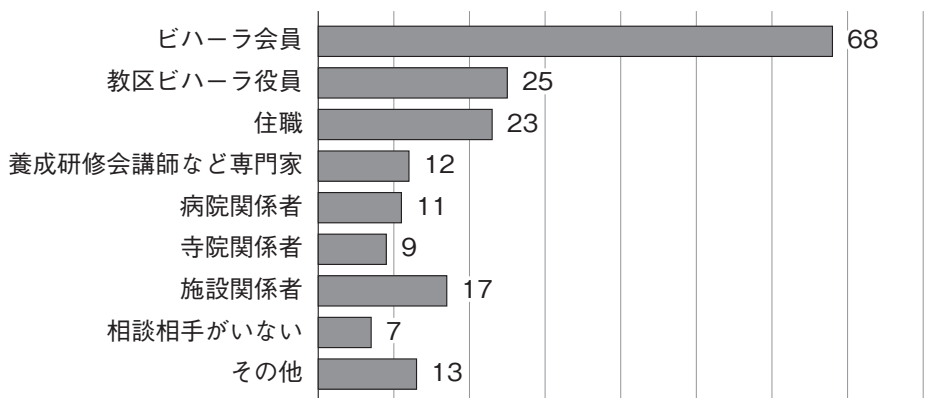


図22 相談している相手

➡ビハーラ活動において、困ったときの相談相手は「ビハーラ会員」という回答が最も多く68人であり、全体の54%であった。次に多いのは、「教区ビハーラ役員」という回答で25人と全体の20%であり、これと「ビハーラ会員」の54%と合わせると、活動者の多くが教区内のビハーラ関係者にサポートを受けていることがわかる。

また、「住職」や「養成研修会講師など専門家」「寺院関係者」など教区ビハーラ以外の人へ相談しているという回答が、44人であり全体の35%であった。このように、第三者的な関係者へ相談できることは必要なことであり、全体の約3分の1はそのようなサポートを受けていることがわかる。

また直接、病院や施設の関係者に相談している活動者は「病院関係者」「施設関係者」を合わせた28人であり全体の22%であった。これは、困ったことを看護師や介護士などの職員に直接相談できている活動者であり、これは活動の連携ができていたり、積極的に問題を解決できる可能性がある状態だと推測される。

問22. あなたが活動の中で大切にしているキーワードは何ですか。単語でお答えください

➡この結果は、大きく4つに分けることができた。

1. [対象者と関わる時の姿勢]
 - (ア) 安らぎ (イ) 敬意 (ウ) 誠実 (エ) ふれあい (オ) 傾聴
 - (カ) 寄り添う (キ) 信頼 (ク) 笑顔 (ケ) 謙虚
2. [活動に対する姿勢]
 - (ア) 感謝 (イ) 対話 (ウ) 継続 (エ) 人との繋がり
 - (オ) できることをできるときに
3. [具体的な心がけ]
 - (ア) 積極的な活動への参加 (イ) 無理をしない (ウ) 自省
4. [仏教に関するもの]
 - (ア) 南無阿弥陀仏 (イ) 「お念仏とともに」 (ウ) 後生の一大事
 - (エ) 報恩感謝 (オ) ご縁 (カ) 和顔愛語

問23. あなたの教区ビハーラについて課題と思うものは何ですか（箇条書）

➡この結果は、大きく5つに分けることができた。

1. [広報活動]
 - (ア) 知名度の低さ
2. [運営上の課題]
 - (ア) 活動のあいまいさ (イ) 施設が少ない (ウ) 交通の不便さ
 - (エ) 講師選定の課題 (オ) 活動への予算の援助
3. [活動内容の課題]
 - (ア) 活動の活発化・継続性 (イ) 活動のマナー化 (ウ) 活動の地域差
 - (エ) 活動上の課題 (オ) 会員同士の交流
4. [学びの場の設置]
 - (ア) 研修の必要性 (イ) 後継者の育成
5. [会員および活動者の減少]
 - (ア) 会員の不足 (イ) 活動者の減少 (ウ) 高齢化

1. [広報活動] については、「知名度の低さ」があげられており、「活動事例の広報・共有」「日本で見ても、あまりにも認知度が低すぎる」「僧侶の認知・認識が低いように思う」などの回答があった。
2. [運営上の課題] については、活動のあいまいさとして、「目的がわかりにくい、役割があいまい」といったことや、「施設が少ない」といった活動上の問題、「交通の不便さ」といった物理的な問題、「活動への予算の援助」といった経済的な問題などがあるといった回答があった。また、講師選定の課題として、ビハーラ活動を支える講師についても課題となっていると考えられた。

3. [活動内容の課題] については、「地域と結びついて継続できる活動があったら」といった活性化や継続性に言及するもの、「盛り上がりが少ないように思う」などの活動のマンネリ化を指摘するもの、「ビハーラ活動が地域別にバラバラで、複数の組織（活動）があること」などの横のつながりの課題、「宗教的介入が困難」といった宗教的な活動の難しさや、「ターミナルケア等がほとんどできない」といったケアの質に言及するもの、また、「実践方法の勉強が不十分」などの課題があるといった回答もあった。また、「会員同士の交流がない」という回答もあり、活動者同士のネットワークの構築の必要性も伺えた。
4. [学びの場の設置] については、「勉強会研修は、月一回開催しているが、ビハーラ会員個々の資質向上のための研修が必要である」など、研修の必要性や、後継者の育成についての回答があった。
5. [会員および活動者の減少] については、「会員の不足」「新しい会員が増えない」「活動に参加してくれる人が少ない」「メンバーの高齢化」「若い人の参加が欲しい」「男性の参加者がほとんどいない」などの回答があった。

問24. あなたはビハーラ活動の記録を書いていますか（1つに○）（n=131）

1. 書いている（n=50） 2. 書いていない（n=81）
1. 書いていると答えた人におたずねします。どのように活用されていますか



図23 活動記録の活用方法

➡ビハーラ活動において、記録を書いているという回答は、50人であり全体の38%であった。これは20年総括書のデータとほぼ変わりなく横ばい状態である。20年総括書にも書かれていた通り、活動そのものを振り返り、再検討するためにも記録をとることが重要であるが、大多数が記録を書いていないことがわかる。これは記録を取った後に、どのように活用することができるのかが、現在記録を取っている人から具体的・实际的に伝わっていないためである。さらに、記録を取るというのは、自身を振り返る側面があり、簡単な作業ではない。さらには守秘義務の問題から、慎重に進める必要もある。

それぞれの活動記録をどのようにとらえ、どのように共有し、活用できるのかを、全国や教区レベルで検討していく必要がある。

また、記録を書いているという活動者は、その記録を病院や施設と共有していることや、ビハーラ会員同士でのミーティングや研究会で活用していることがわかった。「その他」の回答として、「個人の記録として」や「教区へ提出」「自己の研鑽のため」など、積極的に記録を活用している人もいることがわかった。

問25. 僧侶・寺族の方におたずねします

ご自身のお寺でビハーラ活動をされていますか (n=90)

1. している (n=46) 2. していない (n=44)

1. していると答えた人におたずねします。どのような活動をされていますか (記入)

➡この結果は、大きく5つに分けることができた。

1. [高齢者施設への訪問]
 - (ア) 花まつりなどの活動 (イ) 傾聴活動 (ウ) コーラス
 2. [病院の訪問]
 - (ア) 傾聴活動
 3. [日々の活動こそがビハーラ]
 - (ア) 月忌参りなど法要の中での会話 (イ) 一人住まいの方への訪問
 4. [日常的な集まりの中で]
 - (ア) 高齢者のためのサロン・茶話会 (イ) 勉強会
 5. [寺院以外の人との繋がり]
 - (ア) 医療福祉関係者との会合 (イ) 開かれたお寺
-
1. [高齢者施設への訪問] については、「花まつり」「報恩講」「お盆参り」「施設で法話会」などの活動や、「居室での傾聴活動」「コーラスの慰問演奏」などの回答があった。
 2. [病院の訪問] については、「数少ないことですが、家族から病室に行つてと言われできる限り看取りの時間の夜おしゃべりタイムをさせていただきました。」などの回答があった。
 3. [日々の活動こそがビハーラ] については、「特にはしていないが、お寺の日常はビハーラと思っています」「毎日、月忌があり、門徒さんの家に出向きお話することもビハーラ活動と思います」などの日常の法務にビハーラを位置づける回答、「一人住まいの方など気になる方の訪問など」など、より積極的に訪問活動をしているとの回答もあった。
 4. [日常的な集まりの中で] については、「高齢者サロン」「法座の後のサロン」「茶話会しながら、話が中心。時に体操やおやつ作り」など人と人をつなげる集まりの企画や、「仏教会で勉強会」といった学びの場を主催している回答もあった。
 5. [寺院以外の人との繋がり] については、「医療福祉関係者との会合」や「日頃お寺と関わりのない人との交流」「施設からのバスハイクの受け入れ」など、地域に開かれた活動を行っているとの回答もあった。

〔問い26は、宗派が主催するビハーラ活動者養成研修会を修了され、現場で活動されている方におたずねします〕

問26. 研修を終えて活動の現場に出られたとき、研修での学びはどうでしたか。下記尺度の該当場所に○をしてください (n=87)

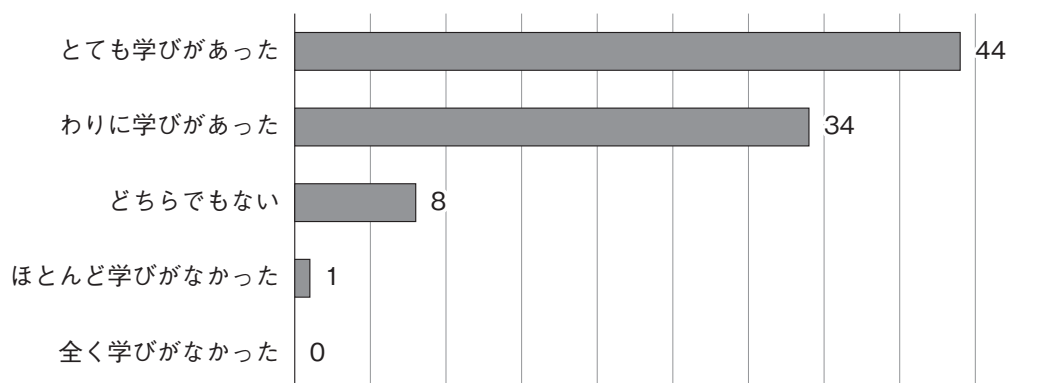


図24 実践現場での研修の学び

その理由を簡単に書いてください。

➡この結果は、大きく5つに分けることができた。

1. [人との出会い]
 - (ア) 活動者同士のつながりができた (イ) 講師の先生とつながりができた
2. [自分自身を省みる機会となった]
 - (ア) 自身を反省した (イ) 自信が持てた
3. [様々な学びがあった]
 - (ア) 理論的な学び (イ) 具体的な学び (ウ) 実践的な学び
 - (エ) 実践例を聞くことができた
4. [対人場面における振る舞い]
 - (ア) 高齢者への接し方 (イ) 患者の理解 (ウ) 傾聴
5. [実践で活かすことの難しさ]

1. [人との出会い] については、「全国の同期の素晴らしい仲間ができたことがとても嬉しい」といった、活動者同士のつながりができたという回答や「講師の先生方に出会えたこと」「講師の先生には研修会の出講等でお世話になっています」と、講師とのつながりができたことを喜んでいるとの回答があった。
2. [自分自身を省みる機会となった] については、「自分の勉強不足を反省」「私自身の反省」などの反省についての回答や、それとは逆の「自信が持てた」「指針となった」など、活動に自信が持てたという回答があった。
3. [様々な学びがあった] として、「全体的な活動内容が理解できた」「実践理論や実践方法を学ぶことができた」という理論的な学び、「車椅子や食事介助などの介護実践」などの具体的な学び、「実践現場研修が役立った」などの実践的な学び、「いろいろな分野の現況等を知ることができた」「現場のスタッフの声を聞かせていただいたこと」など

の実際の現場の話を書くことが学びにつながったなどの回答があった。

4. [対人場面における振る舞い] については、「高齢者との接し方」などの高齢者との対応、「肺ガンの夫に向き合うのにとっても参考になった」などの病気とその患者の状況に関する理解、また、「傾聴を徹底して教えられたこと」「ケアマネージャーの仕事でカウンセリングが大変役に立ちました」などの傾聴についての学びがあったとの回答もあった。
5. [実践で活かすことの難しさ] についての回答もあり、「すぐにかせる場は現在難しい部分もあるが、この先、自分の求める活動の方向性、可能性を知ることができた」という内容の回答があった。

問27. 宗門に望むビハーラ活動の取り組みについて、意見・要望等などあれば自由にご記入ください

➡この結果は、大きく5つに分けることができた。

1. [活動者への支援]
 - (ア) 入門者へのガイドラインの作成 (イ) 活動者の支え
 2. [ビハーラ活動内容の整理]
 - (ア) 活動内容の多様性の認めと整理 (イ) 活動の目標設定
 - (ウ) 活動内容への疑問
 3. [広く社会に開かれた活動のために]
 - (ア) 医療との連携 (イ) 在宅ビハーラ (ウ) 地域との関わり
 - (エ) 寺院や組中心のビハーラ (オ) 子どもから高齢者まで
 - (カ) 宗派を超えたビハーラ活動
 4. [ビハーラ活動の課題]
 - (ア) 認知度のひくさ (イ) 僧侶からの関心の低さ (ウ) 広報活動
 5. [研修会の開催]
 - (ア) 研修会を開催してほしい (イ) 講師の紹介
1. [活動者への支援] について、「活動上心得ておかなければならないこと、マニュアル、初心者にも分かりやすい本等があれば良いと思う」といった入門者へのガイドラインを作成してほしいとの要望があり、活動者へのサポートを期待する回答があった。
 2. [ビハーラ活動内容の整理] について、「ビハーラは良い意味で広範囲であり多様性があるが、ゆえに活動の分散や経験の共有がしにくい（中略）先輩方が広めてくださった活動の可能性をいったん整理する時期かと思う」などの、多様性に対する認めと整理の要望があった。関連して、「目標を定めた現実的実行」という回答もあり、それぞれの領域における課題と目的を明確にしてほしいとの要望もあった。
また、活動が広がったことによって、「SNSでのビハーラ活動は、悩んでおられる方の受け皿になるメリットはあるものの、文字だけのやりとりは危うさもあるのでと危惧します」など、新たな活動に対する疑問や心配しているとの回答もあった。
 3. [広く社会に開かれた活動のために] について、「緩和ケアだけでなく、他の病棟にもビ

ハーラ活動を受け入れていただけるように、患者さん、職員さんからの求めがあるようになると良いですね」など医療とのより強い連携を求める回答や「今から在宅介護が始まるということを考えるなら、同居して逃げ場がなく頑張っている人たちのケアについてもっと耳を傾けることが重要」という在宅ケアについての回答があった。

また、「地域との関わりが大切なことを前々から感じていましたが実感することができました」とより地域に根付いた活動の決意や、「地域的に高齢者の一人暮らし老夫婦での暮らしの人が多く、要支援要介護の人たちの支援は受け入れてもらえるがそれに当てはまらない人で心の寂しさ、近くに友達なくその人たちのために寄せていただけるサロンを各寺でさせていただける活動を進めていただきたい」「ビハーラを広めるために各組単位で中心となるお寺を作してほしい」などの、各寺院や組によって、地域に根ざした活動をしてほしいという意見もあった。

さらに、「高齢者の方々に止まらない、まさしく子どもから大人までの世代が寄り添える場やそういった機会の形成を図ることのできるビハーラ活動を行ってほしい」という世代を超えた働きかけへの要望もあった。

そして、「宗教、宗派を超えた取り組みをもっと推進してほしい」と宗派を超えた活動を要望する回答もあった。このような活動にしていくためには、より一層の社会性と同時に、実践指針の位置づけを検討する必要もあるだろう。

4. [ビハーラ活動の課題] について、「ビハーラという言葉の認知度が低い」といった問題を感じている活動者も多く、「研修を終了したものやビハーラ僧など資格を得た人たちのみが共有していて、一般寺院や門信徒、広くは、全日本人に示されていないことは残念です」といった、本願寺派の僧侶からも関心が低いとの指摘もあった。関連して、「宗門から各地域にビハーラ活動というものをもっと広めて知らせてほしい」「一般のマスコミにもどんどん取り上げてもらえるよう働きかけてほしい」「ぜひ、僧侶、門徒の方にビハーラ活動を伝えてほしい」など、宗門内外への広報活動の要望があった。
5. [研修会の開催] について、「ビハーラ活動養成研修を終了した人たちのフォロー研修をしてほしい」「教区で研修会をもっと行ってほしい」など、研修会に対する要望も多く、そのためにも講師を紹介してほしいとの回答もあった。

問28. その他、ビハーラ活動全般について、ご意見・ご要望などあれば自由にご記入ください

➡この結果は、大きく4つに分けることができた。

1. [活動の広がり]

- (ア) 施設だけではなく、広い社会の中のビハーラ
- (イ) 子どもへの活動を考えてほしい (ウ) 在宅支援の実践
- (エ) 寺院での実践 (オ) 施設実践の開拓

2. [活動の方向性]

- (ア) 専門性と一般性の両立を (イ) 地域や領域それぞれの多様性を認める視点
- (ウ) 自分にできる活動を進める視点 (エ) 実践を通じて、仏教の心が伝わる

3. [宗門内における活性化]

(ア) 宗門内におけるビハーラの重み付けの増加

(イ) 宗門内の情報共有や連携の強化 (ウ) 研修会の依頼

4. [広報への要望]

(ア) よりわかりやすい本やパンフレット (イ) メディアやSNS など

1. [活動の広がり] について、「施設だけでない広い社会の中のビハーラを強く求めます」のように、施設だけではなく、新たに広がっていく活動についての回答があった。具体的には、「子どもを大事に導いていく取り組みを思わずにおられない」などの、子どもへの活動、「高齢者施設や終末期医療施設だけでなく一人暮らしの住宅の方等にも輪が広がるといいですね」などの在宅支援の実践、「施設でのビハーラ活動がお寺でも活動できたら良いと思いました」などの寺院での実践などの新しい活動性についての回答があった。

また一方で、「病院や施設にビハーラ活動として許可していただけることを宗門からも取り組んでほしい」という施設実践の開拓の要望もあった。これらは30年の中で宗門が取り組んできたことでもあり、トップダウンの形での展開方法の限界をうかがうところでもある。

2. [活動の方向性] について、「地方にもビハーラ僧が増えて活動がスムーズに進むようになればと思います（地域の特性を生かした）」といった、専門性やリーダーシップを期待する回答がある反面、「いつでも どこでも 誰でも の実践が現在は抜けているのではないかと思います」といった一般性を求める回答の両方があった。また、「地域に即した活動を進める」、「がん患者と家族の会が生まれ、以来15年、その会が続いています」といった様々な活動が展開されており、それぞれを認める視点が重要であるのではないかとの回答もあった。

また、「自分ができることをやらせていただくことも大切ですというご意見を聞かせていただき、今まで難しく、壁のように感じていたビハーラ活動が取り組みやすくなりました」など、自分にできる活動を進める視点が重要だという回答があった。

加えて、「仏教（という）言葉は使えずともビハーラを通じて、その心は伝えていけるのではないか」「ビハーラ活動を通して間接的に（ソフトに）仏教・真宗の教えが伝わる」などのように、実践を通じて、仏教の心が伝わるという回答もあった。

3. [宗門内における活性化] について、「まずはお寺さん、住職、坊守、寺族の皆様の意識を、ビハーラ活動をしていこうとする方向に向けていかなければ、寄り添うお寺、優しいお寺、お寺と門徒様たち双方向で分かり合える関係が築きにくいと思う」「応援僧侶がいない。ビハーラに対する認識不足ではないかと…。何事でもあとおし！！が必要です。住職・僧侶の協力参加を求めます」などのように、宗門内においてビハーラ活動への理解や協力を求める回答があった。

また、「活動のバラツキがある」との回答があり、仏教婦人会や連研などとの連携や、

社会福祉推進協議会などの他団体との連携を含めた、宗門内の情報共有や連携の強化についての回答があった。

他の回答として、「養成研修会を終了して何年かたつと、知識も薄れるし、気持ちもマンネリになってしまうので、終了者を対象としたブラッシュアップの研修もやってほしい」などの、フォローアップ等の研修会開催を要望する回答もあった。

4. [広報への要望] として、「ビハーラの定義が今ひとつわからないという方が多く、本部の方で適切な導入パンフが必要だと思います」などの、パンフレットやわかりやすい本の希望や、「メディア等をもっと利用してビハーラとホスピスの違いなどをアピールすべき」といった回答もあった。



第16回ビハーラ活動全国集会 30周年記念大会 開催要項

主 催：浄土真宗本願寺派

主 管：第16回ビハーラ活動全国集会

30周年記念大会実行委員会

- ★趣 旨 現代の超高齢多死社会は、様々な場面に直面する社会的弱者を追い
つめ、孤立化させている。ビハーラ活動がはじまって30年。仏様の
願いにより“いのち”の尊さに気づかされた私たちは、その苦しみ
や悲しみを抱える一人ひとりに寄り添い、自らが発信者となって、
より積極的なビハーラ活動を展開するため全国集会を開催する。
- ★期 日 2018（平成30）年2月17日（土）18日（日）
- ★会 場 阿弥陀堂・聞法会館・浄土真宗本願寺派伝道本部
- ★テ ー マ 「いのちを啓く^{ひら}ビハーラに生きよう！
～み仏の願いに生き生かされる実践～」
- ★募集人数 500名
- ★参加費 10,000円（参加費3,000円・懇親会費7,000円）
- ★申込方法 申込用紙に必要事項を記入のうえ最寄りの教区教務所に参加費を添
えて申し込む（申込用紙は各教区教務所に事前送付）
- ★基調講演 講師：カール・ベッカー
（京都大学大学院 政策のための科学ユニット 特任教授）
- ★対 談 対談者：カール・ベッカー
野村 康治（ビハーラ活動推進委員会委員、社会福祉法人至心会理事長）
コーディネーター：丘山 願海（浄土真宗本願寺派総合研究所長）
- ★交通費 各自負担
- ★宿 泊 各自手配

★日 程

時 間	2月17日（土）	会 場
12：15	受 付	阿弥陀堂前テント
13：00	記 念 式 典 ・ご門主様御焼香 ・勤行（讃仏偈） ・ご門主様お言葉 ・総局挨拶 ・感謝状贈呈 ・真宗宗歌	阿弥陀堂
13：30	移 動	
14：30	基 調 講 演 講師：カール・ベッカー (京都大学大学院政策のための科学ユニット特任教授)	聞法会館多目的ホール 研修室①
15：30	対 談 カール・ベッカー・野村 康治 コーディネーター：丘山 願海	聞法会館多目的ホール 研修室①
16：00	休憩・移動	
17：30	意見交換会 〔基調講演・対談を受けて〕	聞法会館 伝道本部・各会場
18：30	移動・チェックイン	
	夕 食 懇 親 会	リーガロイヤルホテル 京都
時 間	2月18日（日）	会 場
9：00	晨朝参拝・朝食・集合	
11：30	分 科 会 〔10テーマ〕	聞法会館 伝道本部・各会場
11：45	移 動・休 憩	
12：15	ビハーラ活動の今後に向けての提言 提言者：吾勝常行（龍谷大学教授）	聞法会館多目的ホール 研修室①
	閉 会 式・解 散	聞法会館多目的ホール

以 上

第16回ビハーラ活動全国集会・30周年記念大会分科会

方向性：ビハーラから少子高齢多死社会を考える

NO	分科会テーマ	講師（役職）	趣旨概要
1	ビハーラ入門講座	野村 康治 (ビハーラ活動推進委員)	ビハーラ活動が始まって30年、活動の内容も様々です。今後の在り方を考え、これから活動に加わりたい方も一緒にビハーラを学び活動の輪を広げていきたいと願っています。
2	障害とともに	松永 真純 (大阪教育大学非常勤講師)	2016年7月26日に起こった相模原事件。被害者を悼み、障害者と出会い、人間を敬うために私たちが考えなければならないことは何か。事件と私たちとの接点はどこにあるのか。皆さんと考えていきたいと思います。
3	子どもを支える	堀 浄信 (社会福祉法人 児童養護施設 光明童園 施設長)	児童虐待や貧困など子どもたちの環境が問題になっています。現在、児童養護施設で生活している子どもたちの実態を通して子どもたちの問題を考えます。
4	災害支援	深谷 誠了 (熊本教区ビハーラ熊本代表世話人 社会福祉法人 高齢者福祉施設 ひかりの園 施設長)	熊本地震で災害支援をしてきた深谷さんに復興の現状と今後の課題などを聞いて、これからやるべきことを聞かせていただきます。
5	緩和ケアにおけるビハーラ	大嶋 健三郎 (あそかビハーラ病院院長 西本願寺医師の会会員)	死を目前にした人に何ができるのか、根源的苦悩にどのように対処しているのか。あそかビハーラ病院の実例を聞いて考えます。
		花岡 尚樹 (あそかビハーラ病院院長補佐)	
6	高齢者ケア	月 孝祐 (社会福祉法人月光園理事 グループホーム静園理事)	超高齢社会を向かえた今、ビハーラ活動で何をなすべきでしょうか。また無縁多死社会と言われる現代にどのように活動するのかを聞かせていただきます。
7	地域コミュニティに果たすビハーラ活動者の役割	成田 智信 (善了寺 デイサービス 還る家ともに 代表)	地域コミュニティが崩れようとする今、お寺の役割やお寺にできることは何でしょうか。実際に地域に根差した活動の実例を通してこれからの寺院の在り方や地域とのつながりを考えます。
8	浄土真宗と死(後生の一大事)	長倉 伯博 (滋賀医科大学非常勤講師)	死は100パーセント訪れます。いつ何が起こるかわからない、現代社会において、死の解決は今、私の問題です。浄土真宗あるいは仏教の立場から死を考えます。
9	ビハーラにおける看護	石村 和美 (長岡西病院ビハーラ病棟 アドバイザー・前看護師長)	ターミナルケアにおける看護の役割は大変大きなものがあります。実際の看護の現場で関わっている看護師の話聞いて患者さんの思いを聞かせていただきます。
10	グリーフケア	福井 智行 (自死に向きあう 関西僧侶の会代表)	自死(自殺)で大切な方を亡くされた方は、様々な理由からグリーフワーク(悲嘆の時間)を持つことが難しいことが多くあります。自死遺族支援に携わっている方とともに、私たちに何ができるのか、ともに考えます。